

(別紙2-3-4)

3 障害福祉分野のロボット等導入支援事業 介護ロボット等使用状況報告書

1 基本情報	都道府県、指定都市、中核市名	神奈川県
	法人名	社会福祉法人よるべ会
	施設・事業所種別	障害者支援施設
	施設・事業所名	よるべ沼代
2 導入に当たったの 情報	介護ロボット等の種別	見守り・コミュニケーション
	介護ロボット等の製品名	自立支援型介護見守りロボットA.I.Viewlife(エイアイビューライフ株式会社)
	リース・レンタルの場合の契約期間	
	1台当たりの機器購入価格	442,816円
	導入台数	5台
	初期設定に要する費用	715,000円
	経費の内訳	専用サーバー(モニター付き) 385,000円 ソフトウェア一式 330,000円 (ソフトウェアはセンサー、専用サーバー、モバイル端末にインストールする)
3 事業に関する 情報	介護ロボット等の使用状況 (使用する業務・使用頻度等)	使用する業務:特に見守りを要する利用者の居室内の見守り 使用頻度:主に夜勤の時間帯(20時~翌朝6時。稼働は24時間)
	介護ロボット等の導入効果 (導入による業務改善状況等)	・訪室回数の減少等、目に見えて明らかな省力化効果は得られていない。①もう少し慣れが必要、②使用環境の整備、が必要と考えられる。 ・利用者の睡眠を妨げずにトイレ誘導を行えた、利用者の居室内の行動について新たな発見があった、等、サービスの品質向上につながる可能性が高い気づきや発見があり、非常に有意義な成果であった。 ・転倒等の異常時に対する備えが、夜勤職員の心理的な安心感を醸成している。
	介護ロボット等の導入の課題	・夜勤職員が、従前から携帯しているPHSと、見守りシステムのスマホ端末の2台を常備しなければならず、通話機能をスマホに集約する等の改善策を検討する必要がある。 ・発報の頻度が多いため、センサー・カメラによる検知機能のチューニングを行う必要がある。

導入機器の写真



AP7 設置場所（1F）



AP7 設置状況（1F）



センサー取付（109号室）



センサー取付（309号室）

導入施設等の声

見守りシステム導入から1年が経過し、「早朝夜間に利用者の睡眠を妨げない」、「利用者の安全を守る」といった効果は確実に得られています。

また“職員の心理的な負担軽減”は大きく、新型コロナウイルスの感染拡大時は特に効果的だったと感じています。

限られた人員ですべての利用者の様子を把握するために、テクノロジーを活用することは、これからの施設運営に不可欠ではないか——そんな実感を得ています。